

2024
7月

久野営農経済センターだより



久野営農経済センター
西湘きんじろう

久野営農経済センター肥料農薬販売会

開催場所：久野営農経済センター
開催日時：令和6年7月13日（土） 9：00～13：00 雨天決行
肥料、農薬を特別価格にて販売いたします。皆様のご来店をお待ちしております。

【温州みかん】

病害虫防除* 下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。う。

7月下旬～8月中旬 〇黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回
又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回

〇カイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回

〇ミカンハダニ・ミカンサビダニ メビウスフロアブル（劇） 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫7日前 2回
アザミウマ類・ミカンハモグリガ

樹別摘果（大津・青島）

裏年の樹は7月中に全摘果しましょ。う。表年の樹は、この時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果しましょ。う。

【不知火・はるみ・湘南ゴールド】

病害虫防除 黒点病の防除が重要となります。必ず行いましょ。う。

6月下旬～7月上旬 〇かいよう病（単用散布） コサイド3000 2,000倍 50g/100㍓
（薬害軽減のためクレフノン200倍 500g/100㍓を加用）

7月上旬～8月中旬 〇黒点病 ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回
又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回

〇ミカンハダニ・ミカンサビダニ メビウスフロアブル（劇） 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫14日前 2回
アザミウマ類 ミカンハモグリガ

※カイガラムシを多く見かけた場合はコルト顆粒水和剤3,000倍 33g/100㍓ 収穫前日 3回を散布する。

摘果* 不知火・はるみは樹勢維持のため、生理落果が始まったら樹冠上部1/3から1/4を全摘果します。

不知火は生理落果終了後に葉100枚に1果、はるみは7月下旬までに葉120枚に1果を目安に摘果します。

* 夏季に乾燥を受けると高酸になりますので、灌水や敷き藁を行い、過乾燥を防ぎましょ。う。

* 湘南ゴールドは7月20日時点で果実の横径が20mm以下（1円硬貨程度）と粗皮やス上がり果の発生しやすい表層成りの果実をシンニング（摘果）する方法が有効です。

【う め】

病害虫防除 7月中旬～下旬

〇黒星病・環紋葉枯病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100㍓ 収穫21日前 3回

礼肥の施用 5月下旬～7月中下旬

（目的）樹勢回復と翌年の花芽充実のため。一番重要な肥料なので、必ず施用しましょ。う。梅配合 120kg/10a

【レモン】

病害虫防除 7月

〇かいよう病・黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ 又は
イデクリーン水和剤 500倍 200g/水100㍓ (薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

7月下旬～8月中旬

〇黒点病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回

〇ミカンハモグリガ・アザミウマ類 メビウスフロアブル (劇) 3,000倍 33ml/水100㍓
チャノホコリダニ・ミカンサビダニ 収穫14日前 2回

※コサイド3000、イデクリーン水和剤との混用は効果低減を招くのでしない。

※カイガラムシを多く見かけた場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回
を散布する

※ジマンダイセンを散布できない場合は、キノンドー水和剤80 800倍 125g/100㍓ 収穫30日前
3回を散布する。

【キウイフルーツ】

病害虫防除 7月上旬

〇果実軟腐病 ナリアWDG 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 2回

〇キウイヒメヨコバイ モスピラン顆粒水溶剤 (劇) 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫7日前 3回
カイガラムシ類

〇カメムシ類発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回

7月下旬～8月中旬

〇キイロマイコガ フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100㍓ 収穫7日前 3回

夏季剪定 止め葉が出る6月中旬ごろより夏季剪定を実施し、棚下の明るさを維持しましょう。

※晴天の日で、土の表面にところどころ日が射す程度

乾燥防止対策 梅雨明け後の乾燥に注意。敷き藁や灌水を実施し、土壌の乾燥を防ぎましょう。

【お茶】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月下旬～7月上旬

〇輪斑病・新梢枯死症 カスミンボルドー 1,000倍 100g/水100㍓ 摘採14日前 2回
※剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布する。

7月中旬～7月下旬

〇チャノミドリヒメヨコバイ コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 摘採7日前 2回
チャノキイロアザミウマ
チャトゲコナジラミ

※夏整枝後、2週間を目安に散布する。

①二番茶を摘採した場合の管理

整枝作業 整枝時期 二番茶摘採10日後を目安に、遅れ芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 二番茶の摘採面

整枝を怠ると摘採面が不揃いになりやすく、来年の一番茶の減収を招きやすいので、必ず行いましょう。

②二番茶を摘採しない場合の管理

整枝作業 整枝時期 7月上旬を目安に、二番茶芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 一番茶摘採面の2～3cm上で行いましょう。ただし、二番茶芽が病害虫の被害で

十分に生育しなかった場合は、一番茶摘採面より数cm下で整枝します。整枝を怠ると芽数が少なくなり、株面の枝が不揃いになるため、来年の一番茶の減収を招くので、必ず行いましょう。

【水 稲】

中干し 効果 ① 無効分けつを抑える ② 根の活力を高める ③ 倒伏に強くする
④ 田面を固くして秋のコンバイン等の作業性を高めるなど。

田面に軽くひびが入る程度を目安に、5日から1週間程度行います。(強い中干しはさける)
土壌中に酸素を送り根の健全な生育を促します。茎数が1株20本を超えたら実施しましょう。

追 肥 中干しが終わると、追肥の時期となります。

※元肥一発肥料を使用した場合には追肥の使用の必要はありません。

幼穂の長さが2cm前後になった頃を追肥時期の目安にしましょう。

はるみ・キヌヒカリ 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12kg程度/10a

てんこもり 出穂20日前頃 化成肥料 17-0-17 18kg程度/10a

施肥時期の目安 (5月25日植えの場合)

はるみ・キヌヒカリ 7月22日前後 てんこもり 7月22日前後

葉色が濃い場合や茎数が多い場合は倒伏につながる為、追肥時期を遅らせ施肥量を減らしましょう。

出穂期の目安 (5月25日植えの場合)

はるみ・キヌヒカリ 8月6日頃 てんこもり 8月11日頃

病害虫防除 7月中旬～下旬

○紋枯病 リンバー粒剤 3～4 kg/10a 収穫30日前 2回又は

モンカット粒剤 3～4 kg/10a 収穫14日前 4回

出穂30日前～10日前に、株元にかかるよう散布

○イネツトムシ パダン粒剤4(劇) 3～4 kg/10a 収穫30日前 6回 常発地区は必ず散布又は ス

ニカメイチュウ ミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

○ヒメトビウンカ スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

※縞葉枯病の症状が出ている株を発見したら、株ごと抜き取り園外廃棄を行いましょう。

中後期除草に使用する2, 4Dアミン塩について、有効分けつ終止期～幼穂形成期前まで、収穫60日前までとなっています。収穫前日数については十分注意しましょう。

カメムシ類について・・・近年発生が多くなっています。減収・品質低下を招きますので除草・薬剤散布を組み合わせることで防除を徹底しましょう。

〈雑草管理〉

○出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませましょう。

○出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めます。1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りをしましょう。

○収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行いましょう。

8月上旬 (粒剤：出穂7日後) (液剤：出穂10日後)	カメムシ類	スタークル粒剤(3kg/10a)	7日	3回
		スタークル豆つぶ(250g/10a)	7日	3回
8月中旬 (粒剤：出穂21日後) (液剤：出穂24日後)		エミリアフロアブル1,000倍 (60～150ℓ/10a)	7日	2回
		キラップフロアブル2,000倍 (60～200ℓ/10a)	14日	2回

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。